

2022. 3. 24

報道関係者 各位

< 配信枚数2枚 >

間文化現象学研究センター主催 国際シンポジウム
「〈あいだ〉と〈越境〉－間文化現象学の展開と新たなはじまり」開催
日 時：2022年3月27日（日）16：00～21：00
開催方法：オンライン（Zoom Webinar）

立命館大学間文化現象学研究センターは、3月27日（日）、「〈あいだ〉と〈越境〉－間文化現象学の展開と新たなはじまり」と題した国際シンポジウムをオンラインで開催いたします。

当センターは、日本初の現象学研究センターとして、2009年に設立し、「自文化」と「異文化」の遭遇がもつ切迫した具体的関係を、いわば内側から解明する「現象学」を中心に据え、世界各地の現象学研究者との交流・連携を実現してきました。

このたび、初代センター長を務めた谷徹先生（本学名誉教授）の退任および間文化現象学の新たな始まりを記念し、国際シンポジウムを開催いたします。当日は、アジア・ヨーロッパの現象学研究の第一人者である3人の先生方に講演いただきます。講演後には、谷先生によるコメントやセンター所属の研究者による特定質問、一般参加の方々による質疑応答なども予定しており、間文化現象学研究の方向性と今後の展開について考える機会になれば幸いです。

記

日 時：2022年3月27日（日）16:00～21:00

開催方法：オンライン（Zoom Webinar）

参加費：無料

申込方法：<http://www.ritsumeai.ac.jp/research/ihhss/events/article.html/?id=92> よりお申し込みください。申し込み送信後の完了画面に、当日のZoom URLをご案内します。

【締め切り:2022年3月25日（金）17:00】

言語：英語・日本語（同時通訳あり）

主催：立命館大学間文化現象学研究センター、立命館大学人文科学研究所重点政策研究プロジェクト「間文化現象学と暴力からの人間存在の回復」、科研費・基盤C「ジャック・デリダの講義録「責任の問い」の思想史的研究と国際的研究基盤の構築」

※詳細は別紙をご覧ください。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠リサーチオフィス 担当：野村

TEL.075-465-8225 <http://www.ritsumeai.ac.jp/research/ihhss/>

プログラム ※敬称略

- 16:00-16:10 開会挨拶 亀井 大輔(立命館大学)
- 16:10-17:30 講演「フッサールの超越論的主観性とハイデガーの現存在」
ナミン・リー(ソウル大学校)
コメント:谷 徹(立命館大学)
特定質問:黒岡 佳柁(中国・福州大学)
司会:鈴木 崇志(立命館大学)
- 17:30-18:00 休憩
- 18:00-19:20 講演「生きられた宗教の両義性——宗教と暴力の関係を再概念化するための現象学的提案」
ミヒャエル・シュタウディグル(ウィーン大学)
コメント:谷 徹
特定質問:蛸子 良風(立命館大学大学院)
司会:亀井 大輔
- 19:30-20:50 講演「〈あいだ〉から〈変形〉への往還—普遍主義と個別主義およびグローバル性とローカル性を越える新たな動き—」
ゲオルク・シュテンガー(ウィーン大学)
コメント:谷 徹
特定質問:神田 大輔(立命館大学)
司会:加國 尚志(立命館大学)
- 20:50-21:00 謝辞・閉会挨拶 谷 徹・加國 尚志